

# 全日本ビーチバレーボール選手権大会 細則規程及び補足事項

## 1 目的

本規程は公益財団法人日本バレーボール協会（以下、「JVA」という。）、一般社団法人日本ビーチバレーボール連盟（以下、「JBV」という。）が主催する全日本ビーチバレーボール選手権大会（以下、「全日本選手権」という。）と、それに付随する各都道府県予選大会の細則として定める。なおこの細則に記載のない事項に関しては各大会実行委員会からの発信物に則ることとする。

## 2 原則

全日本選手権に参加する選手は各大会で指定された競技会日程及び正式行事に全て参加できる者に限る。全日本選手権に参加が決まったのち個人の事情を含め他大会へ参加のため（日本代表派遣などは除く）など全日本選手権を棄権することは原則できない。ただしやむを得ない事情が発生した場合のみ各大会実行委員会への相談、承認をもって棄権することを認める。

## 3 対象大会

- (1) ビーチバレージャパン 全日本ビーチバレーボール選手権大会 男子
- (2) ビーチバレージャパンレディース 全日本ビーチバレーボール選手権大会 女子
- (3) ビーチバレージャパンジュニア 全日本ビーチバレーボール高等学校選手権大会 男子
- (4) マドンナカップ 全日本ビーチバレーボール高等学校選手権大会 女子  
※以下、略称として「ジャパン」「レディース」「ジュニア」「マドンナ」と表記する  
※上記以外の「カレッジ」「U15」「U15\_4人制」に関しては今後協議のうえ決定する
- (5) 各都道府県予選大会

## 4 参加定数

- (1) ジャパン・・・56チーム（主催者推薦6、大学推薦1、高校推薦1、都道府県47、開催地1）
- (2) レディース・・・56チーム（主催者推薦6、大学推薦1、高校推薦1、都道府県47、開催地1）
- (3) ジュニア・・・48チーム（都道府県47、開催地1）
- (4) マドンナ・・・48チーム（都道府県47、開催地1）
- (5) 各都道府県予選大会・・・各開催地による

## 5 参加資格

- (1) ジャパン／レディースの場合

①各都道府県予選大会に出場する時点または推薦をもらう段階において当年度 JVA「チーム及び選手

登録規程」により、JBVに「ビーチバレーボール選手SまたはA」の選手登録をしている者。

- ②都道府県・開催地代表の場合必ず1名が、在住、在勤、在学をしていること。ただし予選大会を開催する主催者の判断で募集時点において制限を設ける場合がある。在住、在学の判断は公益財団法人日本スポーツ協会が定める「日常生活および勤務実態」に則った基準とする。詳細は別紙参照。
  - ③在学の定義は学校所在地とする。ただし通信制の場合、通学の有無によっては在住を優先する。なお大学生（短大等を含む）は下記のいずれかでの登録とする。
    - ・ビーチバレーボール部に所属し活動している大学生は部の所在地での登録
    - ・個人で活動している大学生は在籍する4月1日、現在の学部所在地での登録
    - ・ビーチバレーボール部や学部も大学本部が所在地となっている場合は大学所在地での登録
  - ④出場する選手のうち1名が必ず日本国籍を有しているチーム。
- ※それ以外の参加資格は各大会の開催要項等に記載

## (2) ジュニア・マドンナの場合

- ①「5 参加資格(1) ジャパン/レディースの場合」に記載の①③④と同様とする。
- ②選手2名が必ず同一の都道府県登録（在住、在学）の選手とする。

## 6 全日本選手権参加・選考方法

### (1) ジャパン・レディースへの参加

- ①主催者推薦 JVA ビーチバレーボール・オフィシャルポイント上位6チーム エントリー順
  - ②大学推薦 ジャパンカレッジ優勝チーム
  - ③高校推薦 ジュニア/マドンナ優勝チーム
  - ④都道府県代表 各都道府県予選優勝チーム
  - ⑤開催地代表 各都道府県予選準優勝チーム
- ※②③においては権利を付与するものとし必須ではない
- ※諸条件は別項にて説明

### (2) ジュニア・マドンナへの参加

- ①都道府県代表 各都道府県予選優勝チーム
  - ②開催地代表 各都道府県予選準優勝チーム
- ※諸条件は別項にて説明

### (3) 都道府県予選について

各都道府県において予選大会を実施し優勝チームを大会実行委員会に推薦する。ただし予選大会が他大会の選考を兼ねて併催される場合はその限りではない。

予選大会終了後、主催者は優勝以下の入賞チームに対し補填対象となった場合、全日本選手権へ参加する意思があるかどうか予めヒアリングし予選結果報告書に記載する。

予選大会を行わない場合には各都道府県バレーボール協会、またはビーチバレーボール連盟において推薦候補者の選考を行う。仮に候補者不在の場合には補填対象都道府県としてJBVに申告する。

## 7 全日本選手権エントリー方法

全日本選手権の大会エントリーは原則 JVA MRS を使用する。MRS を使用しない場合には開催要項に記載する。エントリー手続きは選手本人が行う場合と監督が行う場合がある。大会参加申込資料のアップロードが求められた場合、予選結果報告書、選手またはチーム写真、同意書などがあり決まった形式(pdf, xlsx, bmp, jpg, png など) で用意しなければならない。併せて署名や捺印が必要な場合もある。

## 8 シーディング (抽選)

### (1) ジャパン/レディース

ジャパン/レディースでは JVA ビーチバレーボール・オフィシャルポイント (以下「オフィシャルポイント」) を使用するため抽選は行わない。ただし、オフィシャルポイントが同点の場合のみ事前に抽選を行うものとする。

定数56チームに対し推薦チームを8チーム設け主催者推薦は事前エントリーをもって決定する。予め設定されたシーディング日に全てのシードを決定するが全56チームでシーディングを行うのではなく、推薦8までの枠と9～56までの枠に分けてシーディングを行う。推薦(優勝)された大学・高校代表チームのオフィシャルポイントがシード6、7よりも上の場合オフィシャルポイントに沿って規程のシードよりも上とする。

選手変更や棄権が出た場合には都度シーディング変更を行う。シード変更の期限は開催要項等に記載。

- ①主催者推薦 シード1～6
- ②大学推薦 シード7 (固定ではなくポイントにより繰り上がる)
- ③高校推薦 シード8 (固定ではなくポイントにより繰り上がる)
- ④都道府県代表 シード9～56
- ⑤開催地代表 シード9～56

### (2) ジュニア/マドンナ

フリー抽選とする。

ただし同一ブロックをゾーン分けするためチーム数が多いブロック順に抽選を行い同数の場合は北または南より行う。同一ブロックの抽選順はプログラム記載順とする。

抽選後に棄権が出た場合シード位置の変更はせず不戦勝とする。

- ①都道府県代表 シード1～48
- ②開催地代表 シード1～48

## 9 補填について

都道府県代表の推薦が締切日までに無い場合、所属するブロック内より補填を行う。ブロックを越え

ての補填は原則行わない。締切日については各開催要項に記載する。

(1) ブロック種別（北海道・東北を1ブロックとする）

- ・北海道・東北 [7] 北海道／青森県／岩手県／秋田県／宮城県／山形県／福島県
- ・関東 [8] 茨城県／栃木県／群馬県／埼玉県／千葉県／東京都／神奈川県／山梨県
- ・北信越 [5] 富山県／石川県／福井県／長野県／新潟県
- ・東海 [4] 愛知県／岐阜県／三重県／静岡県
- ・近畿 [6] 滋賀県／京都府／兵庫県／大阪府／奈良県／和歌山県
- ・中国 [5] 岡山県／広島県／山口県／島根県／鳥取県
- ・四国 [4] 香川県／愛媛県／高知県／徳島県
- ・九州 [8] 福岡県／佐賀県／長崎県／熊本県／大分県／宮崎県／鹿児島県／沖縄県

(2) ジャパン／レディースの補填

同一のブロック内で開催された各都道府県予選「第2位」のチームをそれぞれ比較し、オフィシャルポイントの高い順に補填チームとして打診する。ブロック内に開催地が含まれる場合は「第3位」チームとし、3位決定戦を行っていない場合にはオフィシャルポイントの高いチームを補填チームとして打診する。エントリーポイントの基準日は各大会の締切日時点でのオフィシャルポイントとする。同点の場合はポイントの高い個人を有するチームを優先して補填する。ブロック内において全ての予選会参加チームがオフィシャルポイントを持っていない場合はブロック内選考で決定する。その方法は各ブロックによって異なるため所属する各都道府県バレーボール協会、またはビーチバレーボール連盟に選考方法を確認する。

同一のブロックにおいて予選会の実施がなく、例として中国5県のエリアにおいて広島県のみが予選会を実施し全国大会に推薦エントリーをした場合、補填チームは広島県の中から4チームを予選の順位に従って推薦する。「5位」など同位が発生した場合はオフィシャルポイント順とする。

2つ以上の県で予選が行われていれば各県予選「第2位」「第3位」の順位に従って同じくオフィシャルポイント順とする。仮に広島県内の予選に4チームしか出場がなかった場合、中国ブロックは欠員1のままとする。

ブロックを越えての補填は原則行わないが競技形式等により補填が望ましいと判断できる場合に限り、大会実行委員会は予選会に参加したチームに対し再募集を行いオフィシャルポイント順に補填する。同点の場合はポイントの高い個人を有するチームを優先して補填する。なお、ポイントの基準日は各大会の締切日時点でのオフィシャルポイントとする。補填をしない場合、開催要項に定められた定数を割って競技を行う。

(3) ジュニア／マドンナの補填

各ブロックにおいて選考方法は異なるため所属する各都道府県バレーボール協会、またはビーチバレーボール連盟に選考方法を確認する。

ブロックを越えての補填は原則行わないが競技形式等により補填が望ましいと判断できる場合に限り、

大会実行委員会は各都道府県予選大会に出場した全チームの中から選考し補填する。  
補填をしない場合、開催要項に定められた定数を割って競技を行う。

## 10 ジャパン／レディース本大会出場における選手変更と棄権について

推薦6チーム発表後、各都道府県予選、カレッジ／ジュニア／マドンナ終了後に選手変更及び棄権は原則認めない。ただし実行委員会がやむを得ないと判断した場合はその限りではない。怪我等の場合は診断書、その他の理由の場合は文書にて実行委員会に申告をする。併せて推薦6以外のチームは各都道府県バレーボール協会、またはビーチバレーボール連盟、ジュニア／マドンナ実行委員会、全日本大学バレーボール連盟から選手変更または棄権の承認を得た申請書を提出することを必須とする。緊急時は後日の提出も認める。選手変更の期限は開催要項等に記載。

### (1) 主催者推薦6チーム

各都道府県予選開始後に棄権がでた場合、推薦チームの補填はしない。全都道府県予選終了後のシーディングにより都道府県代表（補填出場チームを含む）の上位を繰り上げ欠員は補填しない。棄権が出たシードを詰める形となるが推薦8までのチームより上に都道府県代表が上がることはない。選手変更が認められた場合、出場権を付与したままとするがチーム合計ポイントにより推薦シードから外れることもある。その場合、該当チーム以下の順にシードを繰り上げる。選手変更によりチームに加入する新規選手は各都道府県予選に出場しておらず、予選会へエントリーもしていない者に限る。

### (2) 大学推薦代表

棄権が発生した場合、出場権利は推薦順第2位のチームに移行する。仮に第2位のチームが参加出来ない場合は3位以下に権利を繰り下げていく。  
選手変更は同大学内のみとする。同大学内で選手変更ができない場合、該当チームは棄権となる。

### (3) 高校代表

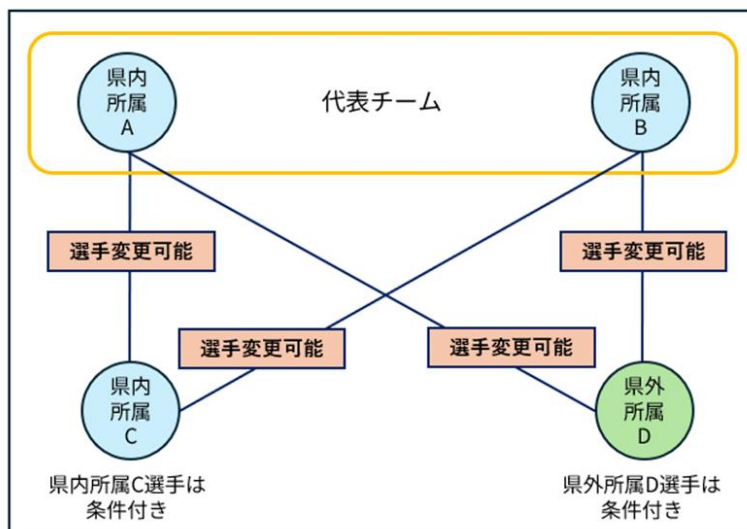
棄権が発生した場合、出場権利は推薦順第2位のチームに移行する。仮に第2位のチームが参加出来ない場合は3位以下に権利を繰り下げていく。  
選手変更は所属する都道府県内のみの選手とする。都道府県内で選手変更ができない場合、該当チームは棄権となる。

### (4) 都道府県代表

本大会締切後に棄権が発生した場合、補填はしない。  
推薦権をもったチームが選手変更を望まず辞退する場合には各都道府県バレーボール協会、またはビーチバレーボール連盟において予選の順位に従って本大会へ推薦することができる。予選会無しで推薦チームを選出していた場合は各都道府県バレーボール協会、またはビーチバレーボール連盟において選手1名が所属する形で再選出を可能とする。

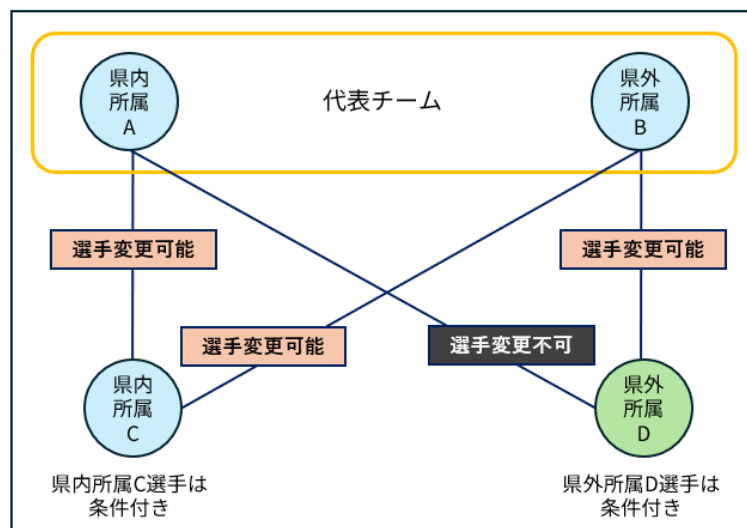
参加選手においてチーム2名ともが所属（在住・在勤・在学）する都道府県から出場の場合、選手変更できる選手はどちらも可能とし所属外の選手でも変更を認める。ただし他都道府県予選に参加した選手、または出場していなくてもエントリーした選手との変更は不可とする。

参考図



参加選手においてチームのうち1名が所属（在住・在勤・在学）する都道府県から出場の場合、所属選手本人の選手変更は同一の都道府県内所属の選手変更のみとし予選会が実施された場合には必ず予選会に参加した選手の中から選出する。県外所属の選手同士で選手変更する場合、他都道府県予選に参加した選手、または出場していなくてもエントリーした選手との変更は不可とする。

参考図



(5) 開催地代表

「10 (4) 都道府県代表」と同様とする。

11 ジュニア・マドンナ出場における選手変更と棄権について

ジュニア/マドンナ各都道府県予選終了後の選手変更及び棄権は原則認めない。

ただし実行委員会がやむを得ないと判断した場合はその限りではない。怪我等の場合は診断書、その他の理由の場合は文書にて申請し実行委員会の承認を得なければならない。申請者は各都道府県バレーボール協会又はビーチバレーボール連盟の代表者から承認を得た申請書を併せて提出しなければならない。緊急時は後日の資料提出を認める。選手変更は所属する都道府県内のみの選手とする。仮に推薦権をもったチームが選手変更を望まず辞退する場合には予選の順位に従って本大会へ推薦することができる。選手変更の期限は開催要項等に記載。

## 1.2 ジャパン／レディースに関わる学生の出場権について

- (1) 推薦（優勝）された大学・高校代表チームがすでに同ペアで都道府県推薦を得ている場合

該当チームは都道府県代表枠とする。ただしシードは7、8とする。

空位になった本大会への推薦枠は準優勝チームに移行する。仮に準優勝～5位まで全てのチームが都道府県予選で推薦権を持っていれば9位のチームに移行する。同位の場合にはカレッジ／ジュニア／マドンナ大会実行委員会にて選考する。大学・高校代表推薦枠は都道府県予選に参加し敗退していたとしても適応する。

新しく選出されたチームは推薦枠ではあるがオフィシャルポイントを使ったシーディングとする。

- (2) 推薦（優勝）された大学・高校代表チームの選手が別ペアで都道府県推薦を得ている場合

カレッジ／ジュニア／マドンナの成績を採用する。よって都道府県推薦は棄権または選手変更の手続きを行う。選手変更の条件は「9（2）都道府県代表」で記載した通りとする。

ただしカレッジ／ジュニア／マドンナ終了後、本大会への期間が短いケースもあるため、事前にパートナーを含め慎重に協議をすること。選手変更の期限によって選手変更ができない可能性もある。

## 1.3 競技の棄権

- (1) レフェリーストップ（大会実行委員会）

各全日本選手権において大会実行委員会（医療従事者を含む）は選手の健康状態を管理する。選手に生命の危機または後遺症が残るような状況が発生したと判断した場合、大会実行委員会の判断によってチームを棄権させる権利をもつ。棄権にあたり選手本人には競技中であったとしても段階的にヒアリングを行う。仮に選手本人が競技続行の意思を持っていたとしても大会実行委員会の判断を優先する。その場合には監督、コーチ、保護者等に対し事前に説明を行う。

- (2) 判断の基準

原則として大会実行委員会の目視による判断とし下記を用いる。

- ①サーブバイオレーションが守れない
- ②コートスイッチの移動時間が著しく遅い
- ③メディカルアシスタンスプロトコル（出血による負傷、重度の負傷、熱中症など）適用後にも改善、回復がみられない

④身体状態が第三者から見て不自然（極度の跛行、倒れこむ、嘔吐、血色など）

⑤場合によりバイタルチェックなどを用いる

#### **14 その他**

ここに記述の無いものは JVA、JBV、各大会実行委員会で協議のうえ決定する。

この細則は、2025年3月19日より施行する。

以上